



# 地域貢献と飼料削減を両立！



## ～株式会社ナカショク(胎内市)～

流通経費の削減は、どの業界においても喫緊の課題です。飼料についても、その多くを輸入に頼っており、海外からの輸送経費に加え、輸入飼料が荷揚げされる港からの国内輸送の経費も多くかかっています。新潟県の畜産業界にとっては、飼料費の高騰に加えて輸送経費が重くのしかかり、死活問題になりつつあります。

新潟県内を中心に鶏・豚を飼育している株式会社ナカショクさんでは、多様な関係者との協力し飼料費を抑える取組を行っています。

### ● 飼料の輸送合理化

取り組みの特徴は、ストックポイント（飼料の中継基地。購入飼料を一時保管・配合し鶏舎・豚舎へ配送）と、他業種の荷物を運んだトラックの帰り便を使うことにあります。新潟県から関東方面に他業種の荷物を運んだトラックの帰り便を利用して飼料を運びます。これにより、運送業者も帰りの便が空荷にならず助かっているとのこと。他業種の発送があるまで飼料の納品を待てるのは、ストックポイントのおかげで、飼料の在庫にゆとりを持てるからに他なりません。



### ● 地域の食資源の有効活用

また、これまで使用していた輸入飼料に代えて、地域で生産された飼料用米や県内の菓子製造工場における食品ロス（製造加工時に発生する食品由来のごみ）を飼料として利用する取り組みも行っています。工場において発生する食品由来のごみは、通常、産業廃棄物として処理費用を払って処分しますが、ナカショクさんが飼料用の食品資源として買い取ることで、廃棄物処理料金の負担がなくなります。この取組により、地域の食品資源を有効に活用し、地域に貢献しています。

また、食品資源を再利用した飼料は自社の鶏・豚に与えるだけでなく、販売も行っています。飼料費が高騰しているため、工場から出る食品ロスを飼料に利用することで飼料費が抑えられています。これまでは手間のかかる割にもうけの少ない取り組みだったそうです。それでも続けてきたのは、地域の工場が困っていると聞いて、役に立ちたかったからだそうです。

### ● 本間社長のコメント

我々畜産業は、臭いの問題などを抱えていて、努力をしているが、地域に迷惑をかけています。それでも社員に鶏・豚を飼っていることに誇りを持ってほしいから、社員が地域で胸を張れるように、地域に貢献していきたいです。

